

町政座談会（日貫地区）

日 時 令和6年1月23日（木）
18：30～20：00
場 所 日貫公民館

1．町長あいさつ

皆さん、こんばんは。大屋光宏です。大変お世話になりました。こうやって町長として立場を変えてお話をさせていただくことができます。ありがとうございます。

町長就任のときから、いろいろな場でこうやって、皆さんが選挙を通じて邑南町の今の状況や将来について感心をもっていたいでいる。それをきちんと町政運営の力にしたいということで、公民館ごとに毎年行いたいという思いで、時期が非常に寒い時期になって申し訳ないんですが、こうやって開催させていただきました。日中お仕事でお疲れの中、また寒い中で、たくさんお出かけいただきまして大変ありがとうございます。

町長になって、何をやっているかというところなんです。年が変わりまして、新年のあいさつでも、職員の皆さんに、私自身もそうなんです。行政は年度替わりというおりの、年が変わったから何かが変わるわけじゃないです。ただ、1月、2月3月は、今年の仕事をしっかり仕上げさせていただいて、来年度の準備を一緒にしてもらいたいという話をしています。私自身も今はまだ、今年度の事業の仕上げです。特に大型事業の仕上げです。道の駅だとか、石見中学校、霧の湯はこの4月の再開に向けて準備をしています。

一方で、今日から予算査定も始まりました。職員の皆さんにつくっていただいた予算を町長査定ということで、見させていただいて、このままやるのか、変えるのか、最後の判断に入っています。皆さんと一緒にという話と、最近の良い循環をつくりましょうという話をしているんですが、役場に入って、町長の立場になって初めてわかるのが、予算についても国が予算をつける。その次に県が、そして町ということで、今、予算準備をしているということは、3月議会は1ヶ月後です。その間に来年の準備をするということ、非常に短い間にしなければいけない。

ややもすると、私も議員をさせてもらいましたが、何でもちょっと考えて出せないんだろうと思うこともよくあったんです。とりあえずの予算ではないですが、議決を得て、新年度になってその準備をして事業をする。だから皆さんに新年度予算でこういうことをしますよと言っても、やるのは7月や8月だったり、建物を建てるのも10月になったりということがあるので、それは今の準備がしっかりできていない。それができないまま新年度に入ってしまうと、予算はあるのにすぐにできない。それがずるずる遅れて、次の準備も遅れる。来年度はどうなるんですかというようなことを聞かれても、いや、まだ今からですということになって、皆さんはもう秋には次の年のこと、公民館事業や自治会の活動についても、地域のことでもそうなんだと思います。早くわからないと、何も準備ができないのという、ちょっと悪い循環で、やむを得ないことはあるんだけど、もう少し早く準備して、きちんと皆さんの手元にいろいろな情報が届けられればと思って、職員の皆さんには、1月、2月は、大変かもしれないけど、死ぬほど頑張ってくださいとまでは言いませんが、しっかりと仕事をしてくださいと言っています。それは、皆さんのため

すし、自分たちのためだと思っているので、成果としてまた皆さんのお手元に来年度予算ということでしっかり届けられればと思っています。

ちょっと座ってしゃべらせてください。今日は、取り組みたいことと書いています。本当は、町の財政が厳しいとか、人口がどうなっていくということを数字で出せばいいんですが、なかなか出しにくいところもあります。言いにくいことがたくさんあるということです。そういうことも踏まえまして、少し話をします。農業振興で言うと、去年から米の値段が高い、野菜の値段も皆さんが買われる立場だと恐ろしく高い。買う方は、上がったたり下がったり、いろいろあったんですが、つくる立場の値段としたら、ずっと上がらなかったものが、すごく上がったので、行政や町の立場からすると、何もしなくて、今年は米を増やすとか、野菜をもっとつくりたいですという雰囲気が出るかなと思ったけど、あまり聞かれないです。辞めますという方が多いんだと思います。それは皆さん少し年を取られたというのもあるし、意欲がということもあるんだと思うんです。そう思うと、せっかくのチャンスです。

道の駅もよくなるので、少し後押しをして生産を続けてもらう、農地の荒廃を防ぐということをして、しっかりしていかなければいけないと思っています。その中で、職員の皆さんにも少し話をし、どこまで全員に話が届いたかどうか、それは皆さんに聞いてもらう場がなかなかないんですが、邑南町は、面積は変わらない、人口は減っていく。非常にこれから行政コストはかかります。だから工夫してくださいという話をしました。農地もいい場所だけつくって、イノシシやサルが出てやれんところは辞めればいいのかという考え方もあるし、人が住む場所も少しコンパクトにすれば、水道とか電気とかの設備投資も少なくして維持費も楽だという考え方もあるんですが、それをすると、どんどん周辺から廃れて、町の中も住めなくなる。周辺があるから今の場所が、いい場所にいるという思いがあるので、まず出来る限り、現状を応援したいと思っています。

世帯数は人口が減るほどには、あまり減っていないです。それは二人で暮らしておられる方が一人になったのかもしれない。訪問する事業であるとか、水道や下水でもコストがかかるばかりです。だからそれを上回る以上に、町として努力しないと成り立たないんだと思っています。非常にしわい話ばかりなんですけど、その積み重ねで成り立っていくのだと思います。毎年、毎年、工夫して少しずつコストがかかる部分を吸収しながら、気が付いてみたらよくやっているよねという町にしなきゃいけないと思っています。

そういうこともふまえながら、少しだけ、資料を元に話をします。

次第に町長への手紙というものをつけています。皆さんの声を聞かせてくださいということで、こういう会議以外に12月の広報でちょっと気が付かれなかったかもしれませんが、12月の広報には町長室のFAX番号が入っています。直接、町長に届くように。あとは、役場の入り口に意見箱があります。あそこに何でもいいので、書いて入れてくださいと言っていますが、FAXは一度も鳴ったことがないんだと思います。前石橋町長の時代から。意見箱に意見が入ることもほとんどないです。何も皆さんに思いがなくてというわけじゃなくて、今の時代にFAXでというのも面倒な話なので、家にあるかどうかというのもあります。使い慣れない方もあるかもしれませんが。

今回はQRコードをつけました。これを読み取っていただければ、メールが直接私に届くようになっていきます。仕組み上、お名前を書いていただいたり、連絡先を書いていただくようになっていきますが、それがなくても受付しますので。タイトル

と思っただけを書いて送っていただければと思いますし、すぐでなくても何日か経ってから、やっぱりおかしいなとか、そう思うな、とかいうことがあれば伝えていただければと思います。

これからの邑南町として取り組まないといけないと思っていることを少し書いています。今、予算の査定中であります。すぐ予算として形になるか、もしくは準備でしかできないかはありますが、こういうことはしていかなければいけないだろうということを書いていきますので、見ていただければと思います。

町内にいろいろな施設があって、全ての施設が修繕なども終わっていて、新築であるとか、何もしなくてもいいのであれば、施設の統廃合は必要ないと思っています。維持費だけで済むのであれば、でも、現実には小中学校の統廃合とか施設の統廃合と書いていますが、それぞれが建て替え時期を迎えている中で、どうするのかということがあります。お子さんの数が少なくなったから統廃合しないといけないということもあるかもしれませんが、施設が維持できない、立て替えが出来ないという部分もあります。学校については、小中学校もそうですし、児童クラブをどうするのか、給食センターも2カ所とも古くなっているの、考えないといけない時期が来ています。

人数の数字を入れなかった理由ですが、参考までに聞いてください。今の小学校1年生から中学校3年生までは、ほぼ1学年70人です。小学生は70人×6で420人くらいいます。全てのお子さんが保育所に通っているわけじゃないんだけど、保育所の0歳児から、6歳の在籍のお子さんは300人です。一学年が50人になります。去年と今年に生まれるお子さんは、去年が40人、今年12月までで28人です。この数字を出すと、学校が中学校一つ、小学校一つという話になるんですかということになるので。ただ、それだけ減っている中で、町としてできるのが、今、40人であっても、IターンUターンがあってももうちょっと増えるかもしれないです。数字だけで統廃合をするわけではないので。教育の在り方はどうすべきかという議論があるので、数字が出していませんが、考えていかないといけない時期が来ていると思っています。

公共施設についても自治会館は不要だからという意味ではなく、それぞれの地域でコミュニティの再編ということで、日貫も取り組んでいかれるんだと思います。公民館単位で一つになったときに、目的がなくなった自治会館は統廃合をしていきたいと思っていますし、斎場についても3カ所必要かどうか。それぞれが古いので、今後の在り方を考えないといけない時期にきています。

一方で、やめますという後ろ向きの話ばかりなんですけど、使わなくなった施設は壊すだけじゃなくて、民間でもほかの使い道がある活用策として、調査や検討をしなくてはいけないと思っています。ほかの自治体では使われなくなった小学校で企業誘致をすとか、そういう新たな活用も含めて、統廃合、施設の廃止をしていきたい。そのための準備はしなくてはいけないと思っています。

住宅についても、それぞれの地域事情があるんですが、町全般で、予算査定をしていてもちょっと変だなと思っながらやってきたんですが。町民の皆さんのいろいろな目線を見た時に、例えば、バスがそんなに人が乗ってないのに、動かしてどうするの？無駄じゃない？と思う方もいるかもしれない。それは理由があって、朝晩の小中学生が使うには必要な大きさだけど、日中は乗る人が少なくて、空で動かすと無駄だよなという見方もあって。

町営住宅は、条件が合って、所得要件で入れない方がいて、空きがたくさんあり

ます。だけど、一般的には、町民の皆さんからは、邑南町には住むところがないと言われます。IターンUターンをして、病院や福祉施設に勤めたいというときに、入る住宅がない。それは所得の関係で入れないと。空き家はいっぱいあるんだけど、活用策を皆さんも考えられたかもしれませんが、若い人にとっては大きいとか、維持費がかかりすぎるとか。

今日もちょっと変だなと思ったのは、予算査定をしましたが、民間の業者さんは県や町の補助金を使って新たに住宅を建てますと申請がきます。ちょうどいい大きさの住みやすい住宅がないというのが現状なんだと思います。今年度、日貫にも住宅を1戸でしたか、建てたと思います。そういうところの需要であるとか。日貫に建てたのは若者定住なので、直接所得に制限がある住宅ではないですが、やはり求められる住宅がしっかり確保できていないということで、この町に住んでもらえないということもあるので、考えていかななくてはいけない課題だと思っています。

産業振興のことを簡単に説明させていただくと、基本的な姿勢は町内にあるお店とか、事業者を守っていききたいと思います。経済循環を極力町内でできるようにしたいという思いがあります。特に、石見は邑南町全体そうですが、全国チェーンのドラックストアがないです。アベルにしてもプラザにしても、フーズフーズ、基本的に皆さん、地元の方がされているお店です。そういう意味では、ほかの町に比べて、地元の人が頑張っておられます。日貫でも地域でお店を持たれるとか、そういう後押しをしていきたいですし、そのためにはいろいろな経済対策を、さくらカードを使ってできれば。さくらカードが使えるお店と使えないお店があるのはわかっているんですが。それをできるだけ使えるようにしていただければ、町が皆さんに何らかの支援をしたものが、町内で使ってもらえるという仕組みになるのが一番いいと思っています。商工業振興にしても、商工会を中心にといい思いがあります。

読んでいただくと何となくわかるかなということで飛ばさせていただきます。

今日は、教育委員会の教育委員の皆さんとお話をする場をつくりました。総合教育会議ということなんですが、そのテーマとしてふるさと教育の意見交換をしました。その思いは、町内で人がいない、人口が減る、その原因はいろいろあるんですが、せっかく矢上高校と石見養護学校の2つの県立高校があって、それぞれに生徒さんがおられる。特に矢上高校は、県外からも来ていただいている。そういう人たちがもう少し邑南町の担い手になり、支えていただきたいという思いがあります。

そのためにどうしたらいいかということで、矢上高校の卒業生、石見養護学校の卒業生が町内で就職する。もしくは、外で学んで帰ってきてもらえるという良い循環をつくりたい。昨年の秋に、役場職員で入られた方は、町外から矢上高校にいられて野球をされて、学校を出られて、またそういうことに関わりたいということで、この町に来ていただきました。少しずつそういう流れができていますので、まずは、せっかく高校振興をするのであれば、その人たちが、この町の担い手になってもらえればいいし、そこを応援する意味もあると思っています。

ちょっと飛ばさせていただきます、子育て村のことを書いています。子育て世代を応援することをどうなのかという意見もあります。日本一の子育て村という看板は今でも残っています。この看板は続けたいと思いますが、じゃあ、どういうことが一番良くて、何をすべきかを、皆さんと一緒に話をしたいです。こういうことをしてあげるといいよね、やってあげようよということを、まず、しなくてはいいと思っています。

併せて、福祉施設の在り方と書いています。12月議会でも一般質問が出ました

が、社協がデイサービスを辞められます。なんで？と、たくさん言われます。それは、高齢者が増えてきているのに、高齢者に対する福祉サービスをなぜやめるのか。これからこの地域のサービスはどうなるの？という心配があるんだと思います。ただ、この町の高齢者は増えていないです。これも数字で示してこなかったんですが、高齢化率は45%で増えていません。ずっとそのくらいの数字です。でも全体の人口は減ってきているので、65歳以上の方は少しずつ減ってきています。そういう意味では、福祉施設も過当競争とは言いませんが、在り方を考えないと成り立たない時代になっています。

一方で、日本一の子育て村と福祉施設の在り方を並べて書いている意味は、子育て世代がそのまま今は福祉施設の中心的担い手です。子育てをしながら、働く場所の大部分は、保育所であるとか、高齢者施設であるとか、病院です。子育ての負担があると、働くのは大変だし、仕事の負担が大きいと子どもと向き合う時間がない。そのバランスがとれないと、どうしてもしわ寄せが若い人に行くので、仕事を辞める。この町から出て行くという流れになる。そういう部分もきちんと対応しなければいけないという思いで、2つ並べて書いています。これからの邑南町の大きな課題だと思っています。

一つ飛ばしまして、老人クラブ、一人暮らし世帯をしっかりと応援したいと思っています。基本的には、つながりのある住み心地のよい町と言っています、それぞれの年代や世代で、つながりを持ちながら、活躍していただきたいと思っています。それは自分たちが楽しまれるのも大事ですし、地域に対して何かしようという思いを持っていただく。それが形になるということも大事だと思っています。100歳大学と書いているのは、12月議会で提案があったので書きました。人生100年なので、仕事を辞めてからその後の人生をどう送るのかを学ぶ場所をつくってほしいと。近畿ではこういう言葉が使われるそうですが、邑南町で社会教育とか生涯学習で、こういう学ぶ場がないわけじゃないです。公民館活動とかさまざまなところであるんですが、改めて皆さんが学んだりつながる場として、こういう言葉で整理できればいいかと思っています。

もう一つは、突然ですが、人間ドックの受診率向上と書いています。非常に財政が厳しいので、財政が楽ではない。どのくらい大変かと言いますと、今年度やっていること、建物を建てるとかは別です。道の駅や中学校が終わるので、そういうことを外して、皆さんに対する住民サービスをそのまま来年しようと思うと、5億円くらいお金が足りません。えーって話ですよ。

ということで、副町長を中心にプロジェクトチームをつくっています。足りない理由は、どこの町も民間も一緒です。人件費がすごく上がっている。それは自給なり、そういうのが上がってきていて、それはしないといけないことなので、国の人事院勧告に基づいて同じようにすると、どうしても12月に7千万円くらい、予算を増やしました。そのくらい毎年増えている。物価高騰や燃料費も上がっているの、電気代とかそういうコストも上がっている。

もう1つは、あまり納得できないんですが、これも皆さん一緒なんだと思います。世の中で便利になればなるほど、パソコンやシステムとか、一度つくったらおしまいではないので定期的に更新もしなければいけないし。例えば会社の事務が楽になりますよとパソコンを入れたり、こういう会計ソフトがありますよって入れると、負担は少なくなってもお金が絶対かかるように、どうしてもシステムにお金がかかってきます。そういう更新の時期にも入ると、お金が足りない。新たなことをした

いわけではないけど、最低限のところはまず厳しい。

最初に話をしましたが、毎年こういうことは起こるんだと思います。その中でどうしたらいいかということ工夫しながら、これを乗り越えていかなければいけないと思っています。皆さんに、これを辞めます、あれを辞めますということ少しは言うかもしれません。

ただ一方で、良いことを辞めて新たな負担が生じるということは避けたいなと思います。その良いことというのが、人間ドックのところに書いていますが、邑南町は皆さん一人一人の医療費が比較的安い町です。県内でも安い方です。かかりつけ医であるとか、邑智病院であるとか、常日頃から気を付けていただいて、きちんと受診をしていただく。大きな病気が少ないということで、決して大きな病気がないということじゃないですが、そういうことが少ないんだと思います。皆さん一人当たりの払う医療費が少ないので、町としてもそこにかかる経費がすごく安くなっています。それは、保健師さんの活動で検診案内があって、皆さんがきちんと受けていただいているからだと思いますが、そういう中で言うと、40歳代、50歳代が、非常に受診率が低いです。そういうところを上げたり、維持しないと今後の医療費は厳しくなると思います。

今、邑南町の中でもう一ついいのは、地域おこし協力隊でブドウをつくりに来ていただいています。大丈夫かなと、皆さん心配していただくんですけど、きちんとブドウという形ができている以上は、しっかりと仕事をされて売り上げも出ているんだと思います。昔に比べれば、20代、30代で農業をする人は多くなったんですが、20代は自営業など国民健康保健は、検診案内が1つも来ないです。会社に勤めていれば別ですが、そういうところもしっかりフォローしないと、今後、難しいかなと思って書いています。

その次がよく聞く、部活動の地域移行の準備をしたいと思っています。

最後に少しだけ書いていますが、定期的な住民の会の開催ということで、この度こうやって開催させていただいています。以前は、女性だけの会を開いたこともあるんだと思います。それがよかったかどうかは別にして、極力いろいろな会を開きたいと思います。それは、皆さんの声を聞かせてくださいということと、町もいろいろなところで困っています。何が困るかということ、いろいろな会があるんだけど、参加してもらえる人が少ないです。どうしても公募委員さんなどが必要ですが、応募していただける方が少なく、誰かにお願いしなければいけない。いろいろな会を開く中で、人をもっと知りたいという思いもありますし、皆さんにいろいろな場面で、出られるところへ出ていただければ、お互いに声を掛け合ったり、情報提供できたり、協力ができるのかなということで、いろいろな思いを込めて、定期的にそういう会が開ければと思っています。

飛ばしましたが、その上のところには、職員の副業と書いています。今までは、役場の人は、副業をしてはいけないと思っていましたが、昔からかもしれませんが、きちんとして手続きをして許可をもらえば、副業をしてもいいです。お金を稼ぐ副業もあるかもしれませんが、地域で困っていること、地域行事の担い手になる、自治会の役をやる、そういうのも副業かもしれません。地域にもっと職員の皆さんが感心を持ってほしいと思っていますし、その延長線上で、職場のほかの人の仕事にも感心を持ってほしいと思っています。それがそのまま、それぞれの個々の能力の向上にもつながりますし、全体の仕事の効率化にもつながるのかなと思っています。一つのきっかけとして、職員の副業を進められればと思います。使えるものは使っ

てくださいではないですが、職員の皆さんで頼めることがあれば、頼んでみてもらって、副業ができるなら許可をもらって、地域のために使ってください。という言い方は変ですが、生かしてもらえればと思います。

昔、私も公務員をしていて、こういう話をして思いましたが、公務員はただで使えるんだから使わないと損だと、地域の人に声を掛けてもらいました。それは祭りをしたり、イベントをするときに声をかけられれば出て行って、仕事の合間でも職務の延長でできることもありますし、今は時代が違うので難しいですが、そういう意味で、もっと職員にも頼っていただいて。ごめんなさい、職員の方もいっぱいおられるのに、負担に思わないでください。いい意味で、お互いにそれぞれの仕事が順調に進めばと。

最後の一言だけ。まだ7時なので、たぶんこの時間に役場の前を通れば、終わると8時くらいなんですけど、帰りに役場の前を通れば、まだ電気がついてます。フレックスタイムで全てが全て残業ではないかもしれないけれど、残業をされてます。町長の立場で非常に難しいんですが、町民の皆さんのために働いていただいているので、ありがたいという思いと、そこまで頑張らなければいけない、しなきゃいけない環境をつくっているのもいけないし、もう少し個々の生活を思えば、何とかスムーズにという思いもあります。

今の残業が多い原因が、お金も少ないのに、あんなに仕事をして遅くまでと言われる方もあるんですけど、大型事業が続いて、どうしてもそこに人手が取られていく。そうすると個々の職場で人手が足りなくなるという悪循環もあります。そういう意味で、行財政改革、予算を減らすというのには、いい意味で仕事の負担が減っていけばいいと思っています。

冒頭にも良い循環と言ったんですが、良い循環を起こしながら、気持ちよく働けて少し余裕ができて、少し余裕ができて、地域のことも見られるように参加しようかとなれば一番いいかなと思っています。

面積が広い町で人口が少なくなって、一人一人が大事な人です。職員の方で窓口対応で、町民の方との対応が負担な方もおられます。皆さんも役場に行って、知った人がおらんでやれんという方もおられます。知っていようが知ってなかりょうが、同じ町民で役場で働いておるので、やさしく声を掛けていただければありがたいですし、一人一人が大事な町民で、職員で、皆で頑張ろうというつもりでやっていけばいいと思いますので、今後も温かく、ちょっと厳しく言ってもらえればと思います。一方的にしゃべりましたが、以上で終わって教育長に代わりたいと思います。ありがとうございます。

2. 教育長あいさつ

失礼いたします。教育委員会の大橋でございます。本日はよろしくお願いいいたします。日頃より、学校運営、あるいは公民館活動等にご支援ご協力をいただいております。近いところでは、昨年11月24日でしたか、小学校の150周年に参加させていただきました。地域と共に、地域の協力により、ステージ場で6人の子どもたちが堂々と自分の言葉で思いを伝えていて、まさに地域との協働活動のおかげです。学校サイドに立てば、非常にありがたい場面を与えていただいたと感心させられました。本当にありがとうございました。

本日、お時間をいただいております。お伝えしたいことは、お手元に色刷りの資料を用意さ

せていただきました。全面印刷した面からお伝えしたいと思います。その左側です。コミュニティスクールという言葉が出て参ります。これは文科省が実際に推進しておりますけれど、邑南町としても令和8年度の導入をめざして、令和7年度にしっかり説明させていただいたり、ご協力いただいたりという準備期間を設けて設置していきたいという思いであります。

では、コミュニティスクールとは何だろうかということでございます。左の中程に四角囲いで書いていますが、コミュニティスクールとは、学校運営協議会を導入した学校となっています。学校運営協議会とは何だろうかというところですが、基本的には、今、日貫小学校の学校サイドに立ったときに、学校の思いをしっかりと地域の皆さんに受け止めていただいて、それを何とか形にしてやろうと。すでに協働体制も構築してあるというようなところでございますので、ベースは学校の思いを地域が受け止めてというシステムは、もうすでにこの地域はできあがっているんだろうと思います。

さらに協議会ですので、右の四角囲みが3つございますが、その一番上、このコミュニティスクールの一つの目玉となるのが、今までは学校の思いを地域が受けてというところでしたが、コミュニティスクールは学校の経営方針を基本的には校長先生が毎年つくられるわけですが、その基本方針を地域の皆さま、この協議会が承認していくという作業が新たに出て参ります。つまり、学校の経営方針にしっかり地域の思いも入れながら、教育課程を展開していく。これが新たな取り組みになるかと思っております。

そのページの一番したです。邑南町ではと書いています。これは、以前、もう数年前になります。300人委員会や1000人委員会、あるいは公民館をとおして、求める子ども像や、思いを共有していこうということも展開しておりました。その延長上として、このコミュニティスクールとご理解いただければと思っております。

続きまして、めくっていただきまして、コミュニティスクール導入のメリットと書いています。これは四角囲みが2つありますけど、上の方が学校から見たときのメリットです。学校としては、以前は、教育課程は学校完結型でやっておりました。それが今、文部科学省も含めて社会に開かれた教育課程を目指すというところで、地域の方々との協力なしには教育が進まないという意味合いでメリットとして挙げさせていただきました。

一方、地域の方から見たときには、学校を核とした地域づくり、地域にとっても十分にメリットがあるというところで、このコミュニティスクール導入を文科省が目指しているところです。

邑南町のイメージとしては、その下に書いてありますが、基本的には小学校単位でこの協議会をつくっているところが全国的には多いかと思いますが、邑南町につきましては、小中学校9年間をぶれずに義務教育を進めていきたいというところ、協議会は中学校区でまずつくっていききたいと思っております。そういう制度設計を含めまして、来年度しっかりといろいろな機会をふまえてお伝えしていきながら、ご指導いただき、令和8年度を目指して参りたいと思っておりますので、引き続きご協力のほど、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

3. 意見交換

大賀総務課長 それでは続きまして意見交換の時間でございます。本日の座談会は、閉会を8時に予定しておりますので、それまでの間、皆さまからご意見ご質問をいただきたいと思っております。手を挙げていただきますと、マイクをお持ちいたしますので、恐れ入りますが、お一人一つずつ、ご意見ご質問をしていただけたらと思っております。よろしく願いいたします。どなたからでも構いません。よろしく願いいたします。

すみません、〇〇です。まず町長さんに、就任間もなくすぐにこういった座談会を開いていただくというのは、非常にいい機会ではないかと思っております。新年度の予算編成時期で忙しい中、こういった場を設けていただくというのは、非常に良いのではないかと思います。

町長さんが、選挙の中でも財政状況のことを特に訴えられて、中でも、私が記憶にあるのが、経常収支が99という数字が出たんじゃないかと。つまり100万円のうち、1万円しか自由にお金がないという感じかなと。実際は、93.6くらいだったように思いますけど、要するに行財政改革をしていく手法と目標というのは、描いておられるのかどうかということところです。なかなか町民は財政の状況というのがわからないので、わかりやすくするために、そうした手法とか目標とかそういったところがあれば、聞かせていただければと思います。

大屋町長 ありがとうございます。経常収支比率が、99.9なんです。百万円あったら、千円しかないんです。わかりやすく言うと、自治会とか集落で、自治会では予算を組むと思うんですが、ほぼ前年並みのことを同じようにするんだと思うんです。それ以上にお金が余ることはほぼなくて、最初に言ったとおり、去年と同じことをしていても、お金が足りませんと。

結局、99ではないと思うんですけど、それは予算のときの話なんです。実際、93%くらいだよねというのは、決算のときです。その差額が自治会とか、いろいろなところで言う、繰越金で余っているお金ということになるんです。毎年、9月に町の決算をすると、4億円前後の繰越金が出ます。それはそのまま次の年の投資に回せるお金ということなんだと思います。若干、自治会とかと見方が違って、繰越金は予算上、毎年頭出しの千円か1万円くらいしか取らないので、4億円とか5億円はあとからつくと思うんですが、そういうことです。

わかりやすい手法として、今、副町長を中心にプロジェクトチームをつくって課長補佐クラスの方に各課から出ていただいて、お願いしますという話の中でも、目標とかわかりやすさというのはあるんだと思います。まず、最低限、貯金を崩さずにやりたいというのが一番です。

皆さんの家や自治会と同じです。毎年入ってくるもので普通のことはやりたい。子どもが大学に行くとかというのは他に貯金をもっているように、日常の生活は貯金を崩したくない。貯金というのは財政調整基金という運転資金の貯金を持っています。10億円くらいあります。それくらいあるんですが、いざ災害にあったらいくらか、そういうところから使うというのがあるので、それを今年度予算は1億数千万円くらい崩したんだと思います。それをまず崩さずに、毎年出来る予算を組まないで、5年くらい経つと、次の予算は立てられないので。そこがまず。それは皆さんには分かりにくいところかもしれないんですが、内部でも目標です。

そこから始まって、初めて投資的なことができる。何かしたいと思えば、どうやって予算を課すかということなんですけど。できれば、最初の2年間でまず今の

状態を改善したいですと言っています。それは、貯金を崩さずにきちんとできる仕組みをつくりたい。その後の2年間は将来に向けてということで、今は目の前のことにお金を使っていますが、次の世代後半はがんじがらめになっています。がんじがらめというのは、今の大型投資の借金返済が始まるので、さらに何もできなくなるところを、少しでも将来も同じように貯金を崩さずにできる。そこで工夫をすれば、次の投資ができるというようにしたいと思っていますので。

非常にわかりにくいところはあるんですが、12月議会でも質問を受けて、町の予算規模はどれぐらいが適正なのかという中で、最終的に一般会計で100億円から120億円くらいにまず、できればと思っています。そうするとどうなるんだということですが、それはお金がきちんとまわって借金をせずに貯金を取り崩さずにできる規模かなと思っています。なかなか説明が難しいんですが、そういう話なので、職員の中でも、もうちょっとわかりやすくと言われているので、そのへんは少し研究させてください。

邑南町の人口規模であれば、だいたい国からの交付税などが60億円ちょっとだと思っんです。自主財源の税金が10億円ということは、70億円でやり繰りできるはずですよというのが、国の見方です。ただ、面積が少し大きいとか中山間直接支払いがあるとか、いろいろなことがあるので、それを足して110億円前後かなと。そこにしなければいけないという思いです。それ以上のところはやっぱりお金を使いすぎだし、やりすぎかなというところですよ。

財政改革というのは大事だと思うんですが、邑南町は非常に厳しいんだよとか、新規事業はほとんどできないよということだけが一人歩きして、返ってそれが、今のように若者が不安を抱いたり、定住も阻害されるというか。邑南町に定住してもそういった財政状況では、なかなかサービスも受けられないんじゃないかとかいうような悪循環になったら、本末転倒だということもあります。これは、子育てにおいても同じことじゃないかと思います。そのへんのところが我々ではわからないところがいっぱいあると思うんですけど、住民の皆さんにも丁寧に説明しながら誤解も解いてもらうようなことで、こうした場もまた持っていたりして、取り組んでいただければと思っています。

大屋町長 ありがとうございます。あまり、最初に財政の話をしなかったんですが、何となく楽ではないという思いを持っていたらと思っています。大型投資が続いて、その借金も背負っている中ですよ。〇〇さんと反対の思いも持っていて、今、本当に大変なので、きちんとして大丈夫ですよということを示さないといけないという思いがあったので。まず財政改革をして、何もできないんじゃないなくて、何かができる町に責任を持ってしますというのが第一かなと思っています。

情報の仕方、お知らせの仕方はいろいろあるんですが、やはり、財政改革をしたので、財政改善しています。毎年、工夫をしています。何とかやり繰りをしながら、皆さんのためのサービスは維持してきていますということを、きちんとアピールできるようにしたいと思います。ありがとうございました。

大賀総務課長 ありがとうございます。ほかの方、ございませんでしょうか。

はい、どうぞ。

〇〇です。大屋町長には、町長就任おめでとうありがとうございます。私は大きな荷物を背負ってもらったのと、町民の安心安全を守るためにこれから、若いので頑張ってもらえるだろうという期待をしておるところでございます。

私から一点、日貫は町の文化財で旧庄屋屋敷、山崎家があります。これを前の石橋町長にいろいろ工面なり努力していただいて、屋根が漏るような状況だったのを改修してもらって、平成の年代に終わりました。そして、私も公民館長をやっておりましたが、その後、辞めて2年間くらいは毎週、煙が出るようにということで。元々が茅という草でございますから、これは傷んだときには即だめになってくるということで、2年くらいは煙を出して、虫がその茅の中に卵を産まないようにと思って頑張りましたが、我が家も孫の子守などで松江の方に度々しないとやれんもので途絶えてしまいました。

今後、大屋町長はこの山崎邸についてどういう考えを持っておられるかというところです。管轄は教育長になると思いますが、それを聞かせていただければと思います。

大屋町長 ありがとうございます。議員もさせていただいて、個人的にもよく日貫を通して浜田に行っていたので、ずっと見ていました。修繕に大変苦労されて、最終的には総葺き替えという経緯も知っています。多聞館も含めてという経緯も聞かせてもらって、今、多聞館を自治会館と児童クラブが使っていますという話も聞きながら。どうするんですかということを担当課とも話をしています。歴史があって、あるものは極力という思いがあります。町の悪いところなんですけど、こういう施設もつくっておしまい。修繕しておしまい。何もしなくても何年も大丈夫でしょうと、この前やりましたよねという感じなんだと思うんです。

今、〇〇さんがおっしゃっていただいたとおり、使わないとなかなか大変なんだと思いますし、定期的に管理しないといけないんだと思います。必要なものだし、大事だとは思っていますが、ただ話を聞いて、維持していかなきゃ、使わなきゃということがあるので、それは教育委員会とも話をして、使って維持しながら、長く残したい。そうしないといけないと思うので、その仕組みを地域の方にさせていただけるのか、町として定期的に行かなくてはいけないのかを考えさせてください。残します、大事ですと言って、何もしないんだったら残せないの。残すために必要なことは、何をすればいいのかを考えさせてください。

民間だったら、帳簿にいろいろ数字が出て、投資するのか修繕するのか、どうするのか、減価償却は合っているのか。町はそれがないので、どうしてもやったらおしまいになってくるので。こういう場でお話いただいたので、残す為に維持するために、維持費も含めてどうしていくのかを少し協議させてください。ありがとうございます。

ありがとうございます。地域も何とか残せるように頑張らなくてはならないと思います。町長の話聞いて、相談に乗っていただけてということでありがとうございます。

もう一点、いいですか。発言したい方もおられると思いますが、産直市みずほ、今度のおおなんの里ですか、道の駅が新しくできつつあります。私も野菜を出したり、地域の加工場でつくったお餅もあそこで販売したり、度々、瑞穂へ行きます。あそこの売り場がだいぶ空いているときがあるんです。この面積が3倍になると聞いておまして、今つくっている人の3倍以上の人が出荷を始めないとおそらくガラガラの産直市になって、お客さんが減っていくんじゃないかと心配しております。

こういうところは、農協も絡むかもしれませんが瑞穂の地元はもちろんです、邑南町の持ち物でありますから、つくったからには、今の庄屋屋敷と一緒に、こ

れが有効に活用されるように、いい知恵を出していかなくてはいけないと思います。これも町長就任早々で、どういう考えをもっておられるのか。人口減少に反比例的に面積が広がったので、そうするものかという心配をしております。

大屋町長 ありがとうございます。面積が増えたのは、通路を広くしたり、棚を高く使っていたものを平で使うという意味でも増えたので、今の産直市みずほの出荷量で、そこで少しあふれる部分も含めてちょうどいい大きさのはずです。

すみません、建前の話です。そこまでは、今はそういう計画なんですけど、産直市みずほは元々駐車場も狭くてお客さんも多くて、そこに出荷量もすごく多くて、売り場面積が狭い。場合によっては制限をして、出荷を遠慮してもらうこともあるということで建て替えたので、新しくなった産直市に出荷物がないとか、スペースが空くということはありません。それが始まりです。

ですので、大きくしたんだけど、ものがないから、何とか町がしてというのは、ちょっとできない話です。建てた意味がなくなってくると思っています。

ただ一方で、準備してできるまでに10年近く経ってしまったので、現実的に生産者も減ってきているということがあります。農業振興の私の立場の思いは、地産地消とかいろいろあるけれども、町内の生産量が増えてそれが市場にもいく、直売所にも出るのが理想であって、どんどん減っている生産量を奪い合って、結局、道の駅にはものがあつたけど、町全体では生産量が減っているのではつくった意味がないと思っています。

冒頭にも言ったとおり、米の値段も高いし野菜の値段も高いんだけど、それが後押しになっていないということは、町として応援しながら、できれば全体の生産量が増えて道の駅にもしっかり生産物が並んでいる、雲井の里にもある、できれば川本にもあつて。261沿いで、どこかにもものがあつて、一か所になくても他に行けばいいよという形になるように、他に行ってもダメだからというようではダメなので。心配される気持ちも十分わかります。そうならないようまず、生産者に野菜や米、加工品なりをつくっていただけるように後押しをしていきたいと思っています。

○ ありがとうございます。

大賀総務課長 はい、どうぞ。

○と言います。今、老人クラブの日貫悠和会で役をやらせていただいております。邑南町も65歳以上になりますと、今さっき町長も言っておられましたが、45%ということは、4千人を上回るくらいではないか、これからも増えるのではないかと思います。

その中で、これから増える高齢者にいかに生きがいをもって、あるいは、若い方々も高齢者を応援して下さるとかというようなことで、石原先生がおっしゃっていましたが、ぴんぴんころりで健康寿命を延ばしていこうとおっしゃるわけなんです。そういったことは、私たち老人クラブの活動の中で、いかに健康を保ち、いろいろな勉強をしていき、あるいは地域に役立つ、子どもたちの学校教育への支援であるとか、草刈だとか、そういったことを思って活動しているわけです。これからも大屋町長さんを含めて町の方でも、そういった助成をしていただいたり、いろいろな催しものもやりやすいうようにしていただきたいと思うんです。

まずは、町長にこれから増える高齢者に対しての明るい希望、こういったものをお聞かせいただけましたら、我々も希望が見いだされて、これかも、がんがんやるという思いがするんじゃないかと思います。一つ、よろしく願いたいしま

す。

大屋町長 ありがとうございます。議員の時代から副議長という立場をさせていただいていましたので、何度か老人クラブの皆さんの会であいさつをさせていただきました。そのときにも、グランドゴルフをするようになって、皆さん背筋がピンとしてお元気だという話も聞きましたし、毎回、90歳以上の方を表彰するんではしたか。参加者の中で、90歳を超えた方の表彰をされています。そういうのを見ると、当然、しっかり応援しながら、それがそのまま。皆さんがお元気なのが一番ですし、小学校や地域の方と交流したり、お米をつくるときにお手伝いに来ていただいたりというのは知っていますので、頑張って応援したいと思います。

こういう会を開くと、すぐに頑張りますと言っちゃうので。お金が全てではないんですが、健康面や生きがいとか、しっかりと支えていきたいと思ひますし、100歳大学と書いたとおり、皆さんが自ら学んでさらに意欲が持てるような仕組みをつくっていきたくて思ひています。

最初に言ったとおり、65歳以上の高齢者が増え続けるんですが、以前に比べて、健康で長く生きられる方が多いので、活動できる期間、皆さんとふれあえる期間は長いんだと思ひます。極力応援したいですという思ひの中で、こういう場面では比較的男性がたくさん出られて、女性の方は少ないんですが。おそらく日常的なところは一人暮らしになると、女性はどんどん出ていけるんだけど、男性は出にくくなったり、ごみもいつ捨てていいかわからないから、溜まっていくとか。社会参画が少なくなるのは、男性なのかもしないです。そういうフォローが町として、いろいろな面で負担になってくるのであれば、違うところでしっかり活動していただくということが大事だと思ひていますので。100歳大学と書いたのは、老人クラブに関わるのは、保健課も医療福祉政策課など、いろいろな課が関わると思ひるので、横の連携の中で進めていければと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○ はい、ありがとうございます。

大賀総務課長 ありがとうございます。ほかには、いかがでしょうか。

小中学校の統合のことで、所信表明でも2年を目処に統合に向けて出していくということだと思ひんですが、それは行財政改革はプロジェクトチームでということを出していますが、小中学校の統合の件は、どうした形で検討されるのか。あるいは、今のように具体的にどのような方向に持っていくのか、どう目指しておられるのかということなんです。そういうところがもし分かれば聞かせていただきたいと思ひます。

私が思ひますのに保育所小学校が、先ほど町長さんが言われましたように、周辺部が疲弊してくる。よく言われる東京の一極集中が、地方版でも同じことだよという感じだと思ひんです。例えば、例で言ったら申し訳ないんですが、日和は小学校、保育所もなくなって、ついには店もスタンドもなくなったと。見たら、矢上のあるところに日和団地ができてしまったよという感じになっていく。それはどうしても子育てをすると、環境的に整ったところに移ってしまう形にもなるんだらうと思ひんですが。やっぱり邑南町全体を考えると、均衡のある地域の発展といか、維持を思えば、保育所、小学校、あるいは生活に必要な店舗など、そういうものが必ずないと若い人も住み続けない。担い手も育たない。子どもさんも今のように、子育てしていくことができないという形になってきて、それが悪

循環になって、結果的に邑南町全体が萎縮してしまう形になると非常に危惧しているところ です。

そのあたりのことをどうした形で考えられるかということと、教育委員会とすり合わせができて いるのかと。先ほど大橋教育長さんとは、新たにこうしたコミュニティスクールの方法を考 えるという部分と、それがマッチするのかなと。そのところがちょっと、ちぐはぐになっ ていくようなところも見えるかなというの もありますので、そのあたりも含めて方向とか、2年間はすぐきますので、皆さんにもわかりやすい取組みを聞かせてください。

今回すぐには言いませんので、ある程度、熟慮が進んで方向的なものが出たら、また そういったことを聞かせていただく形になろうと思いますので、そのあたりのことをお願 いします。

大屋町長 皆さんが大変気にされているところだと思います。今、正直、個別の学校について どうこうという思いは全くないです。もう一つ、2年間で早くと言ったのは、最初 に言ったとおり、年数を置けば置くほど、お子さんの数が少なくなって、選択肢が少 なくなるという意味があっ て、今ならいろいろな選択ができるだろうと思っ ています。

いろいろな選択というのは、今、役場の中でお願いしているのは、教育委員会には子どもたちの教育として理想とすればどうあるべきか、教育委員会の立場で考 えてくださいと言っ ています。もう一つ、作野先生のごことはご存じで関わりがあると思っ ています。学校の在り方とか、高校の関係で作野先生にはすごくお世話になっ ています。地域みらい課が町長部局なので、その地域との関わり、学校の地域との関わりの中で どうあるべきかという、作野先生を中心とした思いで一つ検討をしてくださ いと言っ ています。

〇〇さんがおっしゃるとおり、地域の在り方の中の学校の位置づけという意味では作野先生なんだと思っ ています。子どもたちが主体としての教育、どうい う学 びをするのが、これからの時代にいいのかは教育委員会のほうで。それで、私は私で考 えな いといけな いと思っ ています。来年、一年くらいはその時間をとって検 討して最終的に教育委員会、作野先生 考 えの町長部局、私、と思っ たときに、全く同じ答えが出るのか。もしかすると、全く違う答えかもしれな いです。それぞ れの思いをすり合わせながら、さらにいい形なのか、ほかの形でいくのかはあ るん ですが、まず今は、そういう形で進めさせていただければと思っ ています。教育委員会の話も少し。

大橋教育長 ありがとうございます。今、町長がおっしゃられましたが、教育委員会としては、学 びの効 率を追求していきたいという思いがござい ます。これは文科省がいろいろ打ち出してきてお りますが、学 びの在り方というの は、我々の小中学校時代からは大きく変わっ てきてお ります。ICT教育もそうす けど。

一つ、ちょっと時間をいただい て。我々の時代は、新しい漢字が出てきたときに、たぶん一斉授業で新しい漢字を10回ずつ書いて覚えましょ うというよう な授業展開であつたと思っ ています。全員が同じことをして覚えていくということ です。今は、個別最適な学 びという少し難し い言葉ですが、学 び方も個人的に選ん でい いよという時代になっ てきてい ます。漢字を10回書く小学生もおれば、5回でいい。あるいは、タブレットを使っ て書き順をなぞっ て覚えるという学 び方もあ る。つまり先生が教卓で前に立っ て、板書をしながらの一斉授業というの は少し、変わ りつつあるというよう なところ で言っ たときに、邑南町全体でどんな学 びを

提供していくのが一番良いのか。今、特に学校は、学びの改革というのは、大きな学校、小さな学校も関係なく、教科書もほぼ毎ページにQRコードが貼り付いております。いろいろなことを展開しておりますので、何が一番最適なのかというのを教育委員会として責任を持って追求をした後に、在り方について皆さんにお示ししたいと思っております。以上です。

大屋町長 大事な話なので、その他、この件についてご質問があれば、ご意見をいただければありがたいですし、また後でという方があってもいいです。QRコードを使って、何か思いを伝えていただいても結構ですので。まずは、それぞれの立場でやっていこうという中で、そうじゃない方がいいとか、もっとこんな方法があるんじゃないかとか、検討の仕方もあると思います。

2年でと言ったのは、結論を先延ばしにしても問題の先送りとは言わないですが、早く結論を出して、子どもたちは、統廃合は少し時間をかけて、結論が出て、じゃあ、やるのはその3年後です。そうすると、お子さんは将来がわかりながら、ここ学校からこっちに行く。途中で突然では、やっぱりちょっと。過去、日和小学校のときに突然だったので、突然、来年から替わらないといけないというのは、それぞれのお子さんにとって負担になるので、そういうことはないようにしたい。

その辺の手法も含めてご意見を聞かせていただいたり、思いがあれば伝えていただければと思います。それ以外のことで結構ですので、よろしく願います。

大賀総務課長 それでは、小中学校の統合のことで、ほかの方でご意見ご質問がございましたら、お願いいたします。ほかのことで構いません。よろしく願います。

はい、どうぞ。

子どもたちが日貫小学校には非常に少ないわけなんです、全国的に犯罪ってというのが気になるんです。邑南町であってはいけないわけですが、もう少し防犯カメラや見守りですとか、子どもや高齢者の方にも該当する場合もあるかもしれません。変える場所がわからなくなったような方とか。もうちょっとそういうようなAIを駆使したものができかどうかわかりませんが。監視と言ったら嫌なんです、防犯用の安全策を整えていっていただければと思います。

大橋教育長 ありがとうございます。特に、日貫小学校ですけど、私も何度も職員室に内線をかけても誰も出られません。ということは全ての先生が教室に上がっておられるということで、お客様が来ても、たぶんわからない状況だと。今、〇〇さんがおっしゃられたとおりでございます。

今、カメラも設置してあるということで、町単独の職員の配置と、カメラは設置しております。これは100%ではございませんが、そういったセキュリティの強化ももちろん念頭に置きながら、今後も務めて参りたいと思っております。ありがとうございます。

大屋町長 地域全体の見守りの話をさせてください。資料の中でも、保健医療福祉の充実の2番目の中で、地域内の見守り活動の強化と書いています。町は郵便局や移動販売の方に見守りの協定を結んで、協力していただいている中で、邑南町自体も、もう少しすべきかなと思います。

公用車に全部、邑南町というステッカーを貼ればどうですかと、議会で一般質問を受けたんですが、今、公用車はいろいろな形で使っているので、個人情報、守秘義務があって、町の人が行っているのをわかってちゃいけない場所もあるの

で、それはできないんだけど。

一方で、安全パトロール中という、邑南町というステッカーを作って、建設課とか、そういう人たちが問題ないときには、それを貼ってまわればいいのかと思います。

先ほど言われたとおり、地域に行くとき意外と自分がどこにいるかわからないとか、うろろとされている方もいて、町の車ですとわかれば、声をかけやすいし、まわりの人にも安心してもらえるので、そういう意味でも、公用車でそういう活動で意識ができればいいと思っています。

ライオンズクラブの方にいただいて、いろいろな場所に防犯カメラを付けていますし、それ以外でもいろいろな補助金があったりするんだと思います。また個別にも聞いていただいて、そういうところでも安心して暮らせるように。皆さん一人一人が安心ということと、家族の人も、家にお年寄りを置いて仕事に行かなければいけないときにも、安心して出られるような環境もつくりたいと思います。大賀総務課長 ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

福原自治会の です。2点ほどお願いします。一つは、町長さんが書いておられます今後取り組んでいくことの産業振興の下から2番目です。農地維持のための周辺林地の管理を含めた総合対策の実施ということで、書かれていますが、非常に興味深いです。できる、できないは別にして、どのような思いなのかというのが1点で。

それからもう一つは、去年から邑智病院が新しくなっております。私事で、ちょっとケガをしまして、かなり膝が痛くて水が溜まっていたりということがありました。去年は、まだ昔の入り口から入っております、新しい受付まで行くのにすごく難儀をしました。今までは受付のところにごなたか一人おったり、おらんかったりするんですけど、大変助かったんです。今は、前にも誰もおってないし、新しいところもおられるのかどうかかわからないですが、よく聞くのは、新しい患者さんはどうすればいいかと。心配ごとがたくさんあるし、入り口も2つあるし、職員の方も限られた人数もあるかもしれませんが、要するに困っておられる方がかなりおられるんじゃないかと。それはなかなか目に見えないので、その事情を把握されて人件費の関係もあるかもしれませんが、安定するまでは何らかの対策をしていただければと。特に高齢者の方は困られるんじゃないかと、私も含めて、何とかしていただければと思います。以上です。

大屋町長 はい、ありがとうございます。最初の話は、全ての農地は守れないけど、今後守っていく農地とそうじゃないところを分けるべきだという議論もある中で、奥の方の農地をきちんと守らないと、鳥獣害の被害はどんどん里に近くなるし。水路も奥からきている部分が使えないと、良い場所の田んぼも守れない。ということは、やはり一番奥を大事にしないといけないという思いで、このように書いています。

具体的には、ちょっとずるいやり方ですけど、モデル的に全てじゃなくて、環境贈与税とか使って里山の整備をしています。その中で、同じようにするのであれば、農地等の維持も含まれるような場所、水路が守れるような場所を優先的にやらせていただいて。周辺の林地をきれいにすると見晴らしもいいし、日当たりもいいし、鳥獣害も減るよねというモデルができれば、次につなげて。少して

も自分たちで木を切ろうかなというようになればいいかなと思っています。このために事業を組むのは難しいかもしれませんが、今ある事業の中で少し複合的に効果が高そうなところからしてみてもいいかなと思っています。

昔、鳥獣害が出ないようにするために、緩衝帯ということで、5メートルくらい場所を選んで、木を切ったり草を刈ったりした時もあったんですが、それももうすごく伸びているので、そういうものも含めながら被害軽減や農地が守れることも含めて山の整備ができればと思っています。全てが該当にならないかもしれませんが、少しやってみて効果があるようだったら、次も考えていければなと思います。

病院のことですが、伝えます。すみません。新しくなった病院もそうですし、いろいろなところで不便なことがたくさんあります。造ってみたけど、使い勝手が悪いところはたくさんあって、皆さんの声を聞きながら、今、改修したり改良しながらよくしていますので。そういう心配の声とか、使いにくさ、改修中とはいえ病院ですので、きちんと伝えて改善できることからしていきたいと思えます。ありがとうございました。

大賀総務課長 ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。

地区社協のお世話をさせていただいておりますので、その観点から少しお尋ねしたいんですが。今、高齢者の見守りとか買い物支援ということで、中野のにこ丸くんという車両をお借りして、毎週水曜日に高齢者の買い物や、見守りの実証実験をしております。その、にこ丸くんの借り上げ料とか燃料代とか、あるいは作業をしとる予算は地区社協からいただいております。実際に販売したりする作業は、中山間地の集落営農加算というところから支払いをしていただいております。これは、来年度はなくなるということも聞いたりするんですけども、そうなったときには、例えば町からそういう支援をしていただくことができるのかどうかはわかりませんか。

白須副町長 副町長の白須と申します。先ほど、地域の買い物支援で中山間集落営農加算を活用していただいているということで、〇〇さんがおっしゃるように、これは国の方では廃止の方向で検討されています。

ただ、廃止するかわりに、別の事業に乗り換えてもらいたいという依頼も併せて町に説明に来られました。別の事業というのは、例えば、農村RMOというものですが、これは町内では出羽、口羽で取り組んでおられまして、来年度も阿須那で取り組みの検討をされているところです。そういった別の事業があるので、できればそちらに乗り換えていただければと思います。

ただこれも、事務手続き的にも負担もあると聞いております。そこは、町の担当課は産業支援課ですので、しっかりと相談に乗って取り組めるように準備のお手伝いさせていただきますので、ぜひ検討していただければと思います。

今すぐに、町が支援しますとはっきり申し上げられないんですが、まずそういった別の補助金へというところで相談させていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

大賀総務課長 ありがとうございました。ほかにはいかがでしょうか。

はい、では〇〇さんが最後ということでよろしくお願ひします。

福原の〇〇でございます。ありがとうございます。私は農業をやっているわけですが、ブドウがすごく建設されておりまして、4ヘクタールになるそうです。町長さんにもご相談したというか、それが、あそこのハウスはもう検査も済んだ

ようなことを今日聞きました。それじゃあ、どんな問題があったのかと思いましたが、考えたところ、私が50年前に注文した場合に、圃場整備をやったり、ハウスの建築が2年越しに完成したわけです。資材もあの当時、高騰で、5人でしたが、若干違ったことがありまして、誰が言ったかわかりませんが、町で調整をして5人が同じような金額で、同じような面積で20アールでございますので、その点は変わらないんですが、土地の不足のことが多少はありました。そこは除外といたしまして、建設の費用が2年間なので、資材がちょっと差額が生まれて、そこで調整してもらって。ただ5名ですので、調整してもらって同じ面積ですので、やっていただいた次第でございます。

今、ブドウハウスのことですが、私はブドウはよう作りませんが、以前こういうことがあったということだけお知らせして、どうなるかわかりませんが。資材の高騰で上がったりして、早くやった場合は経費が少なくて済む。2年を超えた場合は資材が値上がりしております、ブドウの生産者のしても均一化がいいと思っております。もう返済が行われていることがあったらきっと難しいこともあります。収穫が、去年から始まっておりますので、そこがどうなるかなと思って。返済も収穫が始まったので、返済が徐々にあるのか、据え置きがあるのかというところで、ご相談ですが、何名が就農されるかわかりませんが、均一の経費で面積当たりの経費のあれでお願いしたいと思います。

日貫の方でも〇〇さんがおられまして、店舗にも出しておられます。優秀だなと思っております。以前のことを出して申し訳ないですが、均一化になれば、均一化にしてほしいと思っております。ブドウの生産者が一丸となって協力し合ってやるのが非常に大事だと思ってご質問しました。ありがとうございました。

大屋町長 ありがとうございます。すみません、僕と〇〇さんしかわからないから、この話は。実は、皆さんがすごく心配していただいておって。神紅のハウスを建ててブドウをつくっていただいている、大丈夫かと言われるんですが。〇〇さんもちゃんと形になったブドウができているということは、技術指導を受けながら経営としても、単価がいいので、成り立ってきています。

ただ、今からの心配は、ブドウ栽培は、ブドウもそうなんですが、年々、資材費が上がってきているので、初期の人と後の人では同じ面積でも、建設費が全く違います。リースなので10分の1が自己負担なんですが、その負担が全く違うので、最初の人と後の人と同じようにしてあげてくれという話なんです。

ただ、昔のハウス団地のように、あるときに2年くらいで同じ場所につくったのはいいんですが、今は場所も違うし、年も違うので、なかなかそれを均一にするのは難しいかと思っておりますし、昔は皆で何か、覚えがある方も多々あると思うんですが、補助金をもらおうと3人以上とかグループでないと出しませんというのが、今は個々になってきています。個人個人ということもあって難しいんですが。

ただ、せっかく来ていただいて経営として成り立たないといけないので、少し皆で話をして。建設費が上がっているんだけど、今までどおりにつくると高くなっちゃうので少し工夫できる場所がないのかというのは、今までつくった人で、これはいらなかったなということもあると思うんです。それも含めて、少し事業費の見直しをしながら負担を和らげて。

一方、町としては高く売れるブドウなので、きちんと販売単価を維持して、皆さんが努力する中で資材費が高くなっても成り立つように応援していきたいと思

います。それぞれの地域で、ブドウの人は大丈夫かと言われるんだけど、途中で帰っちゃうんじゃないかと言われる方もあるけど、ちゃんと根付いていただいて家を建てたり、買われた方もいるし、いろいろな方がおられます。今はブドウだけで精一杯かもしれないですが、少し余裕ができて地域のこともしていただければ、もう少し皆さんも一緒になって応援しやすいかなと思います。

でも自分のことで精一杯というところも温かく見守っていただければと思います。以前に比べれば、地域おこし協力隊がしっかり根付く仕組みができたので、皆さんと共に応援できればと思います。いろいろ心配いただきまして、ありがとうございました。心配なところもフォローしてこの町に根付いてもらえるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。

ありがとうございました。もう一つ、ごめんなさい。矢上運送のバーク堆肥のことですが、邑南町としてだいぶ援助していただきましたので、これが継続になるかどうかと。ぜひとも辛抱のところ、助成していただければと思います。もう去年で予約が終わりだと聞いたんですが、土作りの対策としてご援助していただけないかと思っています。以上でございます。すみません。

大屋町長 堆肥の助成について、続けてほしいという。何でここで会話がわかるかと言うと、いつもの付き合いなのですみません。

町として久しぶりに、昨年、堆肥助成をしました。すごく昔はやっていたんですが、それが必要かどうか、定着しているならしなくてもという見方をした中で、しばらくしていなかったんですが、使う習慣もなくなってきた。手間もかかるのでということで、削減してきました。

今の思いは、成果的には普通の堆肥は結構使ってもらえたんだけど、鶏糞だとか豚糞のような、ちょっと肥料分が高いものは思ったように使ってもらえなかったです。使い方が難しいのかなと思うので、続けれるかどうかは別にして、ごめんなさい、言い方が難しく。できれば、皆さんが使い慣れなかった鶏糞だとか、豚糞について、どちらも町内なので。それだけちょっと支援しながら、少し皆さんに使ってもらえる仕組みを考えられればと思うので、普通の堆肥はちょっとごめんなさいかなと思っています。すみません。

あくまでも町内のものを使ってもらえるように、皆さんに習慣づけて役に立ててもらえるのが大前提なので、その道筋が出来れば、一旦やめさせていただいて、できていないものについては、続けさせてもらうことを考えられればと思っています。ちょっとまだ予算の査定中なので、約束できませんがそういう思いです。

ありがとうございました。時間もオーバーして質問させてもらってありがとうございました。

大賀総務課長 ありがとうございました。予定をしておりました8時になりましたので、これで閉会としたいと思います。閉会にあたりまして、白須副町長からごあいさつをお願いします。

4. 副町長あいさつ

今日は、長時間にわたりまして、幅広いご質問やご意見をいただきました。ありがとうございました。今日のやり取りの中でもありましたが、非常に厳しい財政状況の中、令和7年度は、大屋町長にとって初めての予算編成になります。厳しい財政状況ということもありまして、毎年、予算編成の段階では町長から来年度の基本

方針を示して、それに基づいて、予算の編成作業を進めます。今年の方針は、財政再建という方針となっております。こういったように、現在、事業の検証を一つ一つ行って、見直すところを見直す。これは単年度もそうですが、段階的に見直すということも含めて、見直すという姿勢で今、取り組んでいるところです。新年度予算におきましては、そういった見直しなども行っておりますので、少なからず皆さんの生活や事業活動に影響があるかもしれませんが、そういったところはしっかり説明をさせていただきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

そういった際には、ぜひ、ご意見をしっかり聞いて帰りたいと思っております。いただいた意見につきましては、またその次の予算編成の参考にしていきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

また、小中学校の在り方とか、地域コミュニティの再編につきましては、検討を進めていただいているところでございます。そういったことも中長期的に取り組まなければいけないことも皆さんとしっかり情報共有させていただいて、皆さんと一緒に協働という立場で取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

最後になりますが、遅くお集まりいただきまして、ありがとうございます。時間が限られておりましたので、質問したくても出来なかった方もいらっしゃるかと思いますが、冒頭に町長が申しましたQRコードを読み込んでいただいて、ご意見をいただくなり、FAXも活用できますので、ぜひご意見をいただければと思います。お帰りの際には、交通安全に注意をしていただいて、事故のないように帰っていただきたいと思います。本日は、長時間にわたり、ご質問ご意見をいただき、ありがとうございました。また今後ともよろしく申し上げます。以上です。

大賀総務課長 以上をもちまして、閉会といたします。ありがとうございました。